

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

JUEN

Joetsu University of Education

【ジュエン】

2021
春

No.44・45
合併号

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education
学園だより

【特集1】

附属図書館 リニューアル!

【特集2】

新型コロナウイルス感染症への
本学の対応

教員就職率

全国トップクラス!

学校教育学部

80.0%

採用数 108名

教職大学院

98.1%

採用数 51名

※令和2年3月卒業・修了者の就職状況



(上越で)一番
宇宙に近い研究室

研究室

へようこそ

宇宙を研究すること

私たちが含めこの世界のあらゆるものは、例えば水やタンパク質、脂質や核酸などさまざまな物質で形づくられています。これらの物質はさらに小さなスケールで見れば、水素や炭素、酸素、窒素などの元素で構成されています。これらの元素は、現在の地球では合成されておらず、私たちの住む宇宙の長い歴史の中で誕生してきました。実は私たちが作っている元素はどこかの星で作られたりしたものです。宇宙を知ること、私たちの住むこの世界を理解することなのです。

星の生まれるメカニズムを探るために
コンピュータと仲良しになる

私は現在、電波望遠鏡を使用して、星の材料となる物質の観測を行い、星が形成されるメカニズムの研究を行っています。これらは、星と星の間にある非常に希薄で超低温（マイナス260度！）の物質で、人の目では見ることができませんが、電波では観測することができます。実は、最近の観測は、観測するために自ら望遠鏡のあるところに赴く必要はありません。例えば、南米チリに設置された巨大電波望遠鏡

アルマを使った観測では、(観測させてもらえるかどうかは世界中の研究者との熾烈な競争を勝ち抜く必要があります)観測計画を送ると、そのうち手元にデータがやってきます。そのデータをコンピュータで解析して研究を進めていくのです。私も、一緒に研究しているゼミ生たちも、研究の大部分の時間はコンピュータに向かっていきます。多くの望遠鏡は世界の研究者に開かれていますので、上越にいながら世界で戦うことができます。ある意味楽チンです。ただし、観測データは一年経つと全世界に公開され、誰でも使用することができるようになってしまいうため、気づいたら誰かが同じデータで論文を書いているかもしれません。そういう意味では厳しい世界です。

「わくわく」を見つけて

研究を進めて何か新しいことがわかったときなどは、本当にわくわくします。学生さんたちにも、そんな「わくわく」を経験してもらいたいと思っています。そういう経験を通して、宇宙、そして私たちの身の回りの自然界は、わくわくするような面白くて不思議なことに満ちていること、そのような森羅万象への興味を持つことの大切さを、子供たちに伝えられるような、そんな先生になってほしいと願っています。



濤崎智佳(とさきともか) 自然・生活教育学系 教授

東北大学大学院理学研究科天文学専攻修了。博士(理学)。国立天文台研究員などを経て、2009年4月から本学着任。専門は銀河を対象とした観測天文学。宇宙科学、地学、地学実験などの授業を担当。趣味は本屋めぐりと文房具集め、美味しいランチの店を探すこと。



たくさんの経験を糧に!

この大学に入学してよかったこと

上越教育大学は大学4年間を通して、子どもたちと関わる機会がたくさんあります。3・4年次の教育実習だけでなく、学校ボランティアで小中学校の学習支援に入ることができ、教育現場での経験をたくさん積むことができます。また、『教員になる』という同じ目標を持った人が全国各地から集まっているため、個性豊かな仲間と、お互いに刺激し成長できることも、この大学の強みだと思います。さらに、多くの部活動やサークルがあるため、大学から新しいことを始めたい、やりたいことがたくさんある、という人にはぴったりだと思います。私自身も、ずっと憧れていた吹奏楽を始めることができました。将来の夢に向かって一緒に頑張ることができる仲間と出会うことができ、本当に良かったと思います。

今力を入れていること

私が今特に力を入れていることが2つあります。まず1つ目はボランティアです。大学の近くに、国立妙高青少年自然の家があり、様々な種類のボランティアを経験しました。自然体験キャンプ、学校に行きづらいと感じる子どもたちの自立支援キャンプ、国際交流のキャンプなど、学校とは少し違った子どもたちの様子を見ることができました。次に2つ目は「学びのひろば」です。学生が考えた企画を子どもたちに披露する活動です。年間6回の活動を通して、子どもたちの成長を支えながら、企画力や危機管理能力を身につけることができ、教員を目指す人には本当におすすめの活動です。大学生活は本当にあつという間なので、これまでの経験を大切に、残りの大学生活もやりたいことに挑戦していきたいと思っています。そして、胸を張って子どもたちの前に立つことができる教員になりたいと思っています。

※学びのひろば

「学びのひろば」は、平成10年度に上越教育大学フレンドシップ事業の一環として始まり、「学生が子どもたちとふれあい、子どもの気持ちや行動を理解し、教員としての実践的指導力の基礎を身に付ける」ことを目的に実施してきた事業です。

活動の企画・運営は、すべて学生が中心となり、所属する9つのクラブが「子どもたちの笑顔」のため徹底的な議論を重ね、年6回程度の活動日に、近隣の小学校に通う子どもたちとレクリエーションや野外活動、工作、運動、2泊3日の宿泊活動などを実施しています。



学部3年
自然系三又(数学)
新田麻琴さん

リニューアル！ 附属図書館



- 3階**
- 離れた場所にあった絵本と児童書を集約しました。
 - 本棚には郷土資料や人文社会・芸術系の図書が並んでいます。
 - 学生に人気の個人閲覧席、くつろぎスペースがあります。



フロアのほぼ全面が
アクティブラーニング
スペースになって
使いやすくなりました！

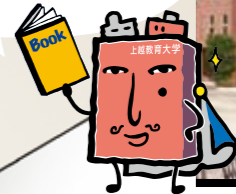
- 2階**
- ほぼ全面が省スペースな電動書架です。雑誌バックナンバーや自然科学系の図書等がたくさん収蔵されています。
 - 利用頻度の高い、開学以来の本学修士論文コレクションを増設書架へ移設して、より使いやすくなりました。

- 1階**
- ゲート外の通路を兼ねたライブラリーホールの壁面を展示用に改修し、ピクチャーレールを設置しました。通りすがりでも鑑賞できます。



館長と事務職員
(阿部靖子館長：前列中央)

自由な学びの場、活動の場として、積極的に活用してください！



館長からのメッセージ
昨年度、ご不便をお掛けしました図書館が、リニューアルオープンいたしました。当初の目的、機能はまだまだ発揮されていませんが、明るく落ち着いた多様なスペースと蔵書が皆さんをお待ちしています。コロナ禍でも開館していた図書館として、そのノウハウも伝えながら、学生一人当たりの貸出冊数が全国の国立大学図書館の中で例年トップクラスである誇りとともに躍進していきます。



ここが便利になりました！

- 扉を閉めて教室としても利用することができず。
- 可動式の机・椅子はフロアのものに入れ換え可能で通常の講義形式の授業にも対応できます。
- 第二講義棟の教室と映像をつないで双方向にやりとりでき、遠隔授業が可能です。

ガラス間仕切りのセミナー室



ここが便利になりました！

- 可動式の机・椅子・ホワイトボード・黒板・電子黒板があり、自由に移動させて利用できます。
- 館内資料やICT機器等を用いた授業に利用可能です。
- 利用頻度の高い教科書・教師用指導書や学習指導要領を近くにまとめて配置しました。

授業にも利用可能な アクティブラーニングスペース

上越教育大学附属図書館は令和元年9月より改修工事を行い、令和2年4月にリニューアルオープンしました。図書館が単なる資料・情報の拠点だけでなく、学生のアクティブラーニングや課外活動もサポートする場所になることを目指し、もともと点在していたアクティブラーニングスペースを、2階の全面改修により集約・拡大させました。
2階は活発な議論や集いのスペース、1・3階は静穏な学習スペースというゾーニングがより明確になったことに加え、蔵書の配置もより使いやすいように工夫しています。

新型コロナウイルス感染症への 本学の対応

10月5日～
教育実習の
実施

9月1日～
対面授業再開
対面式



6月1日～
対面授業限定再開
ハイブリッド



5月11日～
前期授業再開
オンライン



4月20日～
5月10日
臨時休校

4月7日～
4月19日
休校

私たちの暮らしや経済に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症。教育現場でも過去に例のない局面が続く対応に追われています。1回目の緊急事態宣言以降、3密回避、新しい生活様式が提唱される中、本学がどのように対応してきたかを授業・実習を中心に紹介します。

1 授業の実施状況

オンライン授業の実施

臨時休業を終え、5月11日(月)からはオンライン授業を開始しました。オンライン授業は「リアルタイム配信」と「オンデマンド(録画)配信」とがあり、各教科や講義の特性に合わせて、工夫しながら授業を行いました。

pick up 「生活の中の科学」

「生活の中の科学」では学生たちは自宅等から、画面の中で行われる実験の様子を視聴しました。慣れない講義の形態に戸惑いながらも、復習のしやすさ等のオンライン授業の良さを活かして、教員・学生ともに試行錯誤しながら取り組みました。

6月からはTAのサポートを加え、授業の質の向上を図りました。



TAによるサポートの様子



対面授業の再開

6月1日(月)から感染症対策を施したうえで対面授業を再開しました。特にこれまで対面で実施できなかった実技、実験等の授業が可能になりました。

pick up 「ブリッジ図画工作」

「ブリッジ図画工作」は、学部1年生の必修科目であり大学院院P生の選択必修科目でもあるので、受講生が200人を超える授業です。

丁寧に実技を学ばせたいという観点から、例年でも40名ずつにクラスを分けているので、担当教員は週に5回同じ授業を行うことになりました。

1週目は密を避けるため、初回ガイダンスを講堂で行いました。2週目からは実技の内容に移り、令和2年度についてはさらにグループを2つに分け、授業時間の前半と後半で受講生を入れ替えることにより、感染リスクをできるだけ避けて実施しました。



その他、感染リスク低減のために「美術」では、授業の内容や課題を変更し、コンパクトでも質を落とさないための工夫や改善をしています。



再流行に備えオンライン授業も継続して実施

10月5日(月)～12月18日(金)の間で5日間、各教育実習校の協力を得て教育実習を実施しました。附属小学校へは42名、その他小学校へは190名、附属中学校へは27名、その他中学校へは138名の学生が、コロナ禍においても対面の教育実習を行いました。

学校における教育実習の実施

2 コロナ禍の教育実習

令和2年8月11日付け文部科学省通知により代替措置が認められている教育実習等について、本学では実習の一部または全てを大学で行うこととしました。このうち「初等教育実習」及び「中等教育実習」については、9月11日(金)～9月30日(水)の間、オンデマンドとオンラインによる講義、対面による模擬授業、オンラインによる授業実践を行いました。

オンラインによる授業実践

附属小学校での実施 — 初等教育実習 —

232名の実習生が24のグループに分かれ、オンラインで道徳の授業を実践しました。カメラと授業者の距離、課題の出し方、発言者の指名の仕方などオンラインならではの課題を、仲間と協力しながら乗り越えていました。ICT活用力、授業構成力を高めるうえでも効果的な取組となりました。



附属中学校での実施 — 中等教育実習 —

10名ほどのグループで道徳授業(情報モラル)または「感染症による差別」のどちらかを選択)をオンラインで実施するため、仲間と協力しながら入念な準備を行い、リハーサルを重ねたうえで、パソコンの向こう側にいる生徒を相手に授業を実践しました。このオンライン授業は、初等教育実習と同様に、ICT活用力、授業構成力を高める取組となりました。

新型コロナウイルス感染症への本学の対応

3 学生への支援

学生の皆さんの安全安心な大学生活のために実施した新型コロナウイルス感染症予防対策やアルバイト自粛による収入減、自粛生活等への支援の一部を紹介いたします。

新入生 オリエンテーション

4月4日(土)に予定していた令和2年度入学式は、新型コロナウイルス感染症予防対策として実施を見合わせ、4月6日(月)に「新入生オリエンテーション」のみ実施しました。例年は新入生全員を講堂などに集め、安心して大学生活を送り学修するために2日間かけて様々な事項の説明を行います。令和2年度は、新入生が各コース・クラス等の単位で細かく教室に分かれ、ドアや窓を開け席間隔を広く取りながら時間を短縮して行いました。各教室を訪問した川崎学長からは、入学のお祝いの言葉が贈られました。



新入生研修

例年4月、学部の新入生を対象に「新入生合宿研修」として国立妙高青少年自然の家を主な会場に1泊2日で実施しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、この合宿研修を行わずに新年度がスタートしました。そして自粛生活を経て7月29日(水)に「新入生研修」として本学の講堂に新入生が集まり研修を行いました。新型コロナウイルス感染症予防対策を取りながらでしたが、今年度の新入生168名全員が一堂に会することは初めてでした。研修では、就職指導・健康管理指導・生活指導という内容で各担当の教員による講話があり、学生たちは真剣に聴いていました。

修了留学生からの マスク寄付



本学を修了し、中国に帰国した留学生の劉新重(りゅう・しんじゅう)さんから、マスク500枚、ゴム手袋200組、医療用ゴーグル12個を寄付していただきました。「新型コロナウイルスが蔓延している今、少しでも皆様の力になりたいです」とのメッセージも添えられています。



学生応援200円ランチ



学内で実施した「新型コロナウイルス感染症対策学生支援募金」で集まった募金を元に、第一食堂において、通常400円の「おすすめ丼」と「週替わり麺」を本学学生限定で半額の200円で提供しました。この募金による200円ランチはコロナ禍における学生たちへの経済支援と健康管理支援になればと企画されました。学生からは「おいしかった」「アルバイト収入が減ったので助かる」「食事がおろそかになっていただけ、食堂に来るきっかけになりました。200円ランチは好評につき、別の予算を確保して第2弾を行いました。」

新型コロナ対策 学生支援募金

710,000円

くびきの奨学金 (緊急学生支援金)

新型コロナウイルス感染症の影響でアルバイトの自粛又は停止等に伴い、経済的に困窮した学生への支援を目的とし、上越教育大学くびきの奨学金を財源に緊急の経済支援を行いました。募集開始後、申請のあった学生28名全員に、返還不要の「緊急学生支援金」として1人あたり5万円を給付しました。



学生宿舍食料配付

4月16日、すべての都道府県に緊急事態宣言が出されたことを受け、連休期間中も帰省を自粛して学生宿舍等に滞在した学生は、健康観察をしながら教員の指導のもとに生活していました。そのような自粛生活の中、学生宿舍に滞在している学生への支援として、備蓄食品を約450名の入居学生に配付しました。ほかにも、本学を応援してくださる地域団体「振興協力会」からの支援により、大学会館で利用できる500円分の「振興券」も併せて配付しました。

学生の声



オンライン授業を 経験して

学部3年
学校臨床コース(生徒指導総合)
西田 遥さん

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、オンラインの授業が始まった頃は戸惑いもありましたが、最近では、メリットがたくさんあることを再発見する毎日です。その中で最も私が感じていることは、どんな場所でも授業を受けることができることです。対面の授業の時と比べて余裕を持って授業に臨むことができると感じました。そのため、授業時間外でも友人と一緒に学習する機会が増え、協力し合うことが多くなりました。そして、授業に対しての理解も深まり、意欲的に学習するようになった気がします。勿論、オンライン授業のデメリットがないわけではありませんが、時間を有効的に活用できるメリットを最大限に活かし、実りのある有意義な大学生活を送ってみたいです。

4 コロナ禍を 乗り越えて

本学は、人と人とのつながりをキャンパス内で深められることが重要なことと考え、コロナ禍においても令和2年度の後期から「新しい生活様式」に十分配慮しながら対面式授業を取り入れています。皆さんの新型コロナウイルス感染症に対する不安解消を第一に考えながら、一人一人が充実した学生生活を送り学修できるように、適切に対応することでコロナ禍を乗り越えていきます。



上教大生の STAY HOME ライフ & ソーシャルディスタンス

休校、オンライン授業、コロナ対策しながら
対面授業……。そんな中で皆さんがどんな
毎日を過ごしたのか聞いてみました!

オンライン授業

森田 真帆
学部2年
現代教育課題コース

Zoomを使って、オンライン授業をしています。友達に会えないのはとても寂しいですが、良い点もあります。それは、家で受けるからいつもより長く寝られる! 下はパジャマでもバレない! 顔を出さないでおけば髪の毛サボサでもOK! っところですね(笑)。でもやっぱり、以前のように学校に行ってみないと授業受けたいです……。



オンラインライブ鑑賞

宮本 塔子
学部2年
学校教育実践コース

ももいろクローバーZのオンラインライブを鑑賞しました。お家でもライブ会場のような雰囲気を楽しむために、カーテンを閉め電気を消したり、ペンライトをつけて服装もライブに行くときと同じ格好で楽しめます。生で観られない寂しさもありますが、オンラインだからこそお家でまったりと鑑賞できたり、オンラインの良さも実感しました。



Enjoy!

オンライン飲み会

磯 天成
学部2年
教科内容構成コース(保健体育)

Zoomを使って、自宅でオンライン飲み会をしました! 直接会っての飲み会とは違って画面越しにはなりませんが、それでも、好きなお酒や食べ物を持ち寄るのは変わらず、1人だからこそ自分の好きな環境で楽しめるという楽しさも味わうことができました! 気にせず飲み会ができる日が待ち遠しいですね~。



おうち居酒屋& おうちカフェ

永尾 桜子
学部2年
幼年教育コース

焼き鳥を作りました。切って串に刺すだけなので簡単にできました。それぞれのトッピングを変えて、自分の好きなアレンジを探すことも楽しいです。わたしはチーズがお気に入りでした!

おうちカフェではチーズケーキやバナナケーキを作りました。たくさん作りすぎたので冷凍保存をしてゆっくり食べていくことにしました。両方、お家で作るからこそ自分の好きなメニューだけたくさん作って食べることができたので大満足でした。



学食

渡邊 高士
学部2年
教科内容構成コース(理科)

学校が始まり対面授業が多くなりました。お腹減ったな…でも授業まであまり時間が無い…。そんな時には学食ランチ! 出てくるのも早い! ポリューム満点! しかも安い! テーブルには感染症対策として仕切りが作られています! これは学食で食べるしかないですね! 夜もやっているの僕らは部活前によく食べてます! ぜひ学食へ!



編集後記

自粛期間だからこそできる楽しみ方をたくさん見つけることができました! 皆さんも感染症対策をしながら、お家での楽しみ方を探して、充実した時間を過ごしましょう!

永尾 桜子 学部2年 幼年教育コース
宮本 塔子 学部2年 学校教育実践コース
渡邊 高士 学部2年 教科内容構成コース(理科)

上越教育大学
附属幼稚園

「こんな時だからこそ」
広大な自然を遊び場に



10月の幼児教育研究会では、大学の講義室を利用した研究発表やトークセッション等を行いました。本年度は参加人数を制限し、屋外での保育参観に限定するなど、コロナ禍でも感染防止対策を行った上で開催し、大きな成果を得ました。



どんな天候でも幼児にとって、外は楽しい遊び場です。風の日には凧をつかって飛ばしたり、雨の日もカッパを着て雨ならではの遊びを楽しんだりしていました。日差しの強い日は、遮光ネットの下に行く心地よい風が揺れる素敵な場所になっていました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、附属幼稚園の保育も大きな影響を受けました。しかし、こんな時だからこそできることもあるはず。附属幼稚園では、広大な自然に囲まれた立地を生かし、コロナ禍でも安全で楽しい遊びができるよう環境を整えています。

上越教育大学
附属中学校

一人1台タブレット端末のある学校

～自己調整、創造性、人間性に着目して～



タブレット端末は
文房具の一つ



マスコットキャラクター「ふぞくま」

1998年に47台のデスクトップパソコンが導入されてから33年経った現在、附属中の挑戦は加速しています。これまで、2012年、総務省「フューチャースクール推進事業」・文部科学省「学びのイノベーション事業」の実証校として一人一台のタブレット端末を導入したことを経て、2016年には生徒一人一台個人持ちのiPadを学校に持参する環境を整えました。2019年にApple社から実績が認められ、Apple Distinguished Schoolの認定を受けました。

当校の生徒にとって、タブレット端末は「特別なもの」ではなく、鉛筆や消しゴム、ノートなどと同じように、学習に必要な文房具の一つとなっています。生徒は日常的に、学習活動に対して必要な機能や適切な使い方を自ら選択して、活用しています。

学習の基盤となる資質・能力の育成

タブレット端末の活用というと、アプリの使い方そのものに注目されがちですが、当校では、一人一台のタブレット端末と各教科等の「本質に迫る学び」とをつなぐ、「学習の基盤となる資質・能力」の育成に力を入れています。学習指導要領における言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力等に加え、当校では自己調整、創造性、人間性にも着目して教育活動を展開しています。

情報活用能力をみると、カメラ機能の使い方に関して、英語科の発音練習では自撮りするカメラの角度、保健体育科の実技では縄跳びの技を披露して互いにコメントし合うために記録するカメラの位置、理科の実験では考察のときに根拠として活用するためにタイムラプスで撮影する……などの汎用的な使い方が育まれ、各自がそれぞれの教科に適した使い方ができるようになっています。



英語科
iPadで自撮りをして発音を練習している生徒

上越教育大学
附属小学校

「学びを止めない」の
その先へ

～活用・探究型課題「Fチャレ」の取組～



ホームメイドチャレンジ

3月から5月の臨時休業中に、子どもの学びの機会の保障について考えました。そして、児童の学習意欲や挑戦意欲を高めたり、子ども同士のよさを認めたりできる機会とすることをねらいに、全校自由課題「附属小チャレンジ（通称・Fチャレ）」を企画しました。子どもが楽しみながら、活用・探究型の学びへとつながるきっかけとなることを目指し、教師一人一人が、自身の持ち味や専門性を生かしたチャレンジを企画しました。子どもは、全24種類のチャレンジメニューから自分の興味関心に合わせて選択し、取り組みました。インターネット等で提出された画像や動画、延べ535名の658作品一つ一つからは、子どもの自主性や学習意欲を感じることができました。

「達成感を感じられて、うれしい気持ちになった」「今度は○○のようなチャレンジをしたい」と感想をもつ子どもの姿、自主的に「自由部門」として応募してくる子どもの姿から、休業中であっても「学びを楽しむ」子どもの育ちを感じました。

できごときもち
5・7・5

びったり長さ
チャレンジ

オリジナル!
コマづくり

ホームメイド
チャレンジ

チャレンジメニューの一部

GIGAスクール構想で
学校が変わる

2021年度、児童・生徒一人一台のタブレット端末と高速通信ネットワーク環境が整います。主体的・対話的で深い学びの実現に向け、タブレット端末とクラウド環境を効果的に活用した授業や教育活動を展開していくことが求められています。

今、教育が大きく変化する転換点にきています。皆さんでアイデアを出し合って、ワクワクする学校を創っていきましょう。



音楽科
iPadで自分の歌声を録音して練習している生徒

〈附属中学校・書籍発行のご案内〉
発売日：2021年4月発行予定
予 価：1,600円（税抜）
出版社：東京書籍
*詳細は、当校ウェブサイトで公開中

男子アイスホッケー部

活動内容

男子アイスホッケー部はリージョンプラザにて毎週火曜日と木曜日に活動しています。部としての活動は週2回ですが、上越の社会人チームや中高生チーム、本学の女子チーム PINKHIPS との交流が盛んで、ビジターとして練習に参加させていただいています。また、試合に向けて、2泊3日の合宿や、遠征、他大学との練習試合などの活動に取り組んでいます。6～9月のオフシーズンには、陸上でのシュート練習やハンドリング練習、トレーニングに取り組んでいます。その他のイベントとしては、BBQ や遠征先での観光、お花見など、楽しい企画もあつたりします(笑)。

氷上の格闘技

アイスホッケーは日本ではマイナーで馴染みのないスポーツですが、海外ではメジャーなスポーツとして位置付けられています。アイスホッケーは、またの名を「氷上の格闘技」と呼ばれるように激しいボディコンタクトや、陸上とは比べ物にならないほどのスピー

ド感がある迫力のある魅力的なスポーツです。一度見たら貴方もアイスホッケーの虜になるはず!!

全員初心者からスタート!

現在の部員は全員、そんなアイスホッケーに魅了され、未経験ながらも大学から始めました。監督やコーチがいない中、ビデオカメラで撮影した自分たちのプレーを見て研究したり、部活動以外での時間を使った自主練習を繰り返すなど、常に仲間たちと高め合い、日々の練習に取り組んでいます。

今後の抱負

昨年度一部リーグに昇格することができました。もっと上を目指し、成長し続けていきたいと思います。今後とも、上越教育大学アイスホッケー部の応援をよろしく願います!



DATA

令和2年11月現在
部員数/25人
活動日/毎週火・木曜日
活動場所/リージョンプラザ上越
活動実績/昨年度一部リーグ昇格

【取材協力者】

学部4年 言語系コース(英語)
小池 尚輝



ボードゲームサークルLogica

最高のコミュニケーションツール

ボードゲームサークル Logica (ロジカ) は令和2年に設立したサークルです。部員は20人で、毎週大学や上越の施設で活動しています。ボードゲームは、みなさんも一度は遊んだことのあるトランプやオセロ、人生ゲームも含まれます。私たちは、それだけではない日本や海外の様々なボードゲームを楽しんでいます。ボードゲームのことをまだ知らない方へ、その魅力をご紹介します。

ボードゲームの魅力

1つ目は、初対面同士でもすぐに仲良くなれることです。初めての人同士でも、遊んで30分もしないうちに仲良くなれるゲームがたくさんあります!自分から話すことが苦手、という方でもゲームの流れで自然に会話もできてしまいます。

2つ目は、趣味や年齢に関係なく遊べることです。ボードゲームは、ルールが分かれば世代を超えて遊ぶことができます。私たちが、社会人の方々と毎週遊んでいます。同じゲー

ムでも、プレイヤーが変わると全く別のゲームとして楽しめるので、そこも魅力です。

3つ目は、自身の感情が揺さぶられることです。ゲームの勝利や、仲間との協力が成功して嬉しい時もあれば、僅差で負けて悔しさを感じる時もあります。これほどに感情が動く体験が、実は皆さんのすぐそばにあります。ボードゲームの魅力は、ここに書ききれないほどまだまだあります。

サークルの活動

子供にボードゲームを体験してもらうボランティア、越秋祭でのボードゲーム体験会など毎月楽しいイベントを予定しています。

この記事を見て、少しでも「楽しそうだな」と思っただけの方は、ぜひ音 204 教室へ遊びに来てください!あなたの人生が変わるものに出会えるかもしれません。

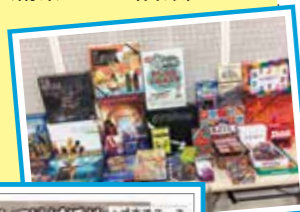


DATA

令和3年2月現在
部員数/20人
活動日/毎週月・火・木曜日
18:00~21:00
活動場所/音楽棟204教室
活動実績/
令和元年11月開催「青空ボードゲームフェス」にボランティアとして参加
上越の児童施設でボランティア活動

【取材協力者】

学部4年 芸術系コース(音楽)
阿部 健志



上越タイムスに掲載されました

上教大 なんでも 掲示板

第13回 辰野千壽教育賞の 選考結果

令和2年10月23日(金)に第13回(2020年度)辰野千壽教育賞の授与式を挙行し、本学の川崎直哉学長が、優秀賞を受賞された赤松弘一氏、松村謙一氏、奨励賞を受賞された内野裕太氏に、その栄誉を讃え、賞状を授与するとともに副賞を贈呈しました。

授与式には、辰野千壽教育賞選考会議に学外有識者として参画いただいた新潟工科大学教授の高田喜久司様(選考会議議長)にも御出席いただきました。

●最優秀賞 該当者なし

●優秀賞

氏名	所属・職名等	主題及び副題
赤松 弘一	兵庫県明石市立二見北小学校 校長	身近な自然に対する探究心を育むための実践 ～理科通信をきっかけに～
松村 謙一	三重大学教育学部附属中学校 指導教諭	個の育成をめざす中学校社会科経済学習の授業研究 ～同時性解消と社会的連帯の経済概念に着目して～

●奨励賞

氏名	所属・職名等	主題及び副題
内野 裕太	鹿児島県西之表市立榕城小学校 教諭	よりよい人間関係を築き、児童一人一人の自己有用感・自己肯定感を高め、本音で磨き合える学級集団の育成 ～『特別活動』における学級活動(1)・(2)・(3)を中核とした授業実践を通して～



同教育賞は、初代学長である辰野千壽氏の長年にわたる教育・研究業績の精神を受け継ぎ、我が国の教育に多大な影響を与える優れた教育・研究の振興に貢献するため創設されました。

初等中等教育諸学校等の教育現場における特色ある実践研究や先進的取組を讃え、更なる発展に向け積極的に支援することを目的としています。

秋田公立美術大学と覚書締結

令和2年12月14日(月)、上越教育大学と秋田公立美術大学は、現在締結している連携・協力に関する協定を踏まえ、新たな覚書を締結しました。

覚書の主な内容は、教職に対して強い意志・意欲と適性を有する秋田公立美術大学の学生が「上越教育大学大学院学校教育研究科専門職学位課程多様な教員人材育成修学プログラム(大学院専門職学位課程への進学前に、学部の段階から本学教職科目の一部を履修できるもの(通称:ブリッジプログラム))」を履修することができるというものです。



協定書を掲げる川崎学長(写真左)及び霜鳥秋田公立美術大学学長(同右)並びに両大学関係者

実就職率 全国1位獲得

令和2年8月3日(月)、大学通信 ONLINE(下記参照)が発表した「2020年最新実就職率ランキング」(卒業生数100名以上1000名未満の部)において上越教育大学が全国の国公立大学の中で第1位を獲得しました。

大学通信ONLINE

<https://univ-online.com/>

修了生からの
お便り



大学院同窓会

上越教育大学学校教育学部同窓会と
上越教育大学大学院同窓会の統合について

学部同窓会は昭和60年3月に第一期卒業生を輩出し、卒業生数は現在6592人を数えます。また、大学院同窓会は、同年3月に第一期修了生を輩出し、修了生数は現在8309人を数え、本学の卒業生、修了生は、総計1万5000人近い人数となっています。そして、これら同窓会のみなさんは全国の学校、教育委員会、大学等でご活躍されています。

これまで、両同窓会はそれぞれの組織の目的を踏まえて、活動を継続してきたところですが、このたび、今後の支部活動の課題や大学支援の在り方等を考慮して、両同窓会の統合が提案され、その準備が進められています。統合の趣旨は、両同窓会がこれまでそれぞれで行ってきた活動を対等な立場で統合して一体化し、改善していくことで、「会員相互の親睦」や「上越教育大学の発展・充実への寄与」が大きく期待されるからです。会の名称は「上越教育大学同窓会」とさせていただきます。

広い視野に立って
物事を考える



平成30年より2年間、修士課程（保健体育）でお世話になりました。大学院に入る前から、小学校体育のネット型ゲームの系統的な学びに関するゲーム指導について研究をしてきました。しかし現場で働きながらの研究に限界を感じ、大学院で専門的な知見を得ようと大学院に入学しました。

大学院に入学してからは、土田了輔先生の研究室に入り、多くのことを学びました。土田先生は国内外の論文等から様々な知見を示し、研究に対する多角的な視野や様々な検証方法を教えてくださいました。土田先生を通じて、他大学の先生方と交流することもでき、自分の研究するネット型について、たくさんのご指導をいただきました。

また同じ研究室のゼミ生や同期の仲間たちと、大学院での授業や自身の研究について、何度も議論し、考えを深めました。私と同じように学校現場から来た院生もいれば、大学を卒業したばかりの院生もおり、年齢に関係なく、熱く議論を重ねた毎日は、大変刺激的で、とても有意義なものでした。

そして何より2年間、現場を離れ、自分の研究したい分野にとことん没頭できる日々は大変貴重なものでした。県内外で行われる学会に参加したり、遅くまで図書館で文献を調べたりと、働きながら

では到底成し得ることのできない貴重な2年間でした。

現在は2年生の学級担任として、日々子どもたちと学んでいます。体育においては、小学校6年間の系統性を踏まえ、低学年で身に付けさせるべき内容は何か、中学年に向けてどう指導していけばよいのか、領域間で活用できるものにはどんなものがあるか等に配慮して授業を組み立てています。大学院で学んだことで、小学校全体、体育科の領域間のつながりといった広い視野に立って物事を考えるようになりました。今後は自校だけでなく、新潟市全体の体育指導の向上にも寄与できるように、頑張っていきたいと考えています。



櫻井 朝之
(さくらい ともゆき)

新潟県新潟市出身。新採用で長岡市立豊田小学校に勤務。その後、佐渡市立河原田小学校、新潟市立早通小学校に勤務。早通小学校時代から、ネット型の授業実践を積み重ね、筑波大学附属小学校初等教育研修会でネット型の実践を発表。平成26年より新潟市立有明台小学校勤務を経て、平成30年より本学大学院に入学。大学院修了後は新潟市立有明台小学校に戻り、学年主任や生活指導主任として勤務している。

れる予定です。統合後の事業内容には、「会員相互及び大学との連絡等に関する事業」、「会員名簿の管理に関する事業」、「大学との共同事業に関する事業」、「その他同窓会の目的を達成する上で必要と認める事業」等があげられています。

令和2年8月に統合同窓会を発足する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から今年度は理事会等の開催を見合わせ、令和3年度からの統合に向け、再度調整を進めている状況です。

上越教育大学同窓会の益々の発展を祈念申し上げます。

上越教育大学副学長
同窓会担当 直原 幹

修了生の住所等をお知らせください

転居・転職・結婚等により個人情報の変更があった場合は、お知らせください。

詳細については、公式ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先 / 上越教育大学大学院同窓会事務局
E-mail / dousoukai@juen.ac.jp

上越教育大学 同窓会

検索



ご寄附のお願い - 教員養成を通して皆様の思いを将来ある子どもたちに -

上越教育大学基金

上越教育大学では、法人としての財政基盤の強化を図り、本学における学生支援活動、教育研究活動等の推進を図ることを目的に、「上越教育大学基金」を設置しています。企業、団体、個人の皆様からの引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

詳細はこちら▶



上越教育大学リサイクル募金

上越教育大学リサイクル募金は、皆様から読み終え不要になった本・DVD等をご提供いただき、その査定額を「上越教育大学基金」に寄附していただく取組です。寄附金は、上越教育大学基金において、学生の修学支援、教育研究活動の充実発展をはじめとした事業に役立てられます。

ご寄附の詳細などはこちら▼

kishapon.com/juen/

上越教育大学 リサイクル募金

検索



「それぞれの道で羽ばたいて」

春の息吹が感じられる中、学部を卒業、大学院を修了される皆さん、誠におめでとうございます。本学で研鑽された成果を自信として、それぞれの道で力を発揮されることを期待いたします。この1年は新型コロナウイルスの関係で、本来は大変だったと思います。新学期からの授業停止、5月からのオンライン授業、6月になってからようやく一部対面型授業開始など、教育実習等も含めて、精神的にも辛い1年だったと思います。しかしこの経験は、将来いろいろな壁を乗り越えるときに必ず役に立ちます。この経験もプラスにしてそれぞれの道で頑張ってください。

卒業・修了される皆さんのほとんどは、教育現場で活躍することになるとは思いますが、子供達に自らしっかり考えてもらいたい事柄があります。それはSDGs（持続可能な開発目標）にも取り上げられている環境問題、特に地球温暖化問題に関わる気候変動です。温室効果ガスの中で最も大きな割合を占めるのは二酸化炭素ですが、それに関わって「カーボン・ニュートラル」や「カーボン・オフセット」と言う言葉をよく耳にします。ご存じのように「カーボン」は「炭素」

を、「ニュートラル」は「中立」を意味します。植物由来のバイオマス燃料などは、燃やしても大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えません。バイオマスを燃焼すると化石燃料と同じように二酸化炭素を発生しますが、空気中に排出される二酸化炭素の中の炭素原子は、もともと空気中に存在した炭素原子を植物が光合成により取り込んだものであるため、ライフサイクル全体で見ると大気中の二酸化炭素を増加させず、その収支はゼロとみなされます。そのため、カーボン・ニュートラルと呼ばれるています。首相も、国内の温室効果ガスの排出を2050年までに「実質ゼロ」とする方針を表明しました。これからは太陽光、風力、波力、潮力、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーの利用に拍車がかかることになるでしょう。

地球温暖化問題や海洋汚染問題などの環境問題は、地球規模で考える必要があります。子供達に残された大きな宿題と言えます。子供達が自らの未来について学び、主体的に考えることは全ての学びの基となり、大きな意義を持ちます。それは教師の皆さんの働きにかかっています。科学技術がいくら発達しても、人間を相手



学長 川崎 直哉

にする「教育という活動」では言うまでもなく、教師が最も大きな影響力を持ちます。いつまでも子供達の心に残るような思いやりのある教師となってください。最後にアルバート・アインシュタインの教育に繋がる言葉を贈ります。

教育とは、学校で習ったすべてのことを忘れてしまった後に、自分の中に残るものをいう。そして、その力を社会が直面する諸問題の解決に役立たせるべく、自ら考え行動できる人間をつくること、それが教育の目的といえよう。

退職教員から 皆さんへ



芸術・体育教育学系
教授 平野 俊介

プロフィール
1984年4月、助手として着任。講師および助教授を経て、2009年4月、教授に就任。専門はピアノ演奏法、伴奏法、楽曲研究。

この出会いと学びに感謝

昭和59年から長年に渡り本学には大変お世話になりました。意欲に溢れたゼミ生たちに囲まれて、私も彼らから多くの刺激を受ける中で、研究の視野を広げることができましたし、また音楽の先生方との共演を通して、音楽表現への知見を深めることもできました。私と関わっていただいた全ての方々へ心より感謝いたします。



学校教育学系
教授 松沢 要一

プロフィール
2008年4月、准教授として着任。2012年1月、教授に就任。専門は数学教育学(主に教材開発)。

お世話になりました

42年間の教員生活。このうち、21年間は本学に関係しました。附属中学校5年間(平成2年～)、学教センター3年間(平成17年～)、教職大学院13年間(平成20年～)。各場所で教職員の皆様、学生の皆様へ大変お世話になりました。ありがとうございました。皆様のご健勝と本学のご発展を願っております。



芸術・体育教育学系
教授 阿部 靖子

プロフィール
1986年4月、文部技官として着任。助教授を経て、2008年4月、教授に就任。専門は美術教育学、立体・環境造形。

ありがとうございました

豪雪から始まりコロナで終わる本学での34年間。様々な学生と出会い、多くの教職員の皆様に助けられ、充実した時間を過ごすことができました。心よりお礼申し上げます。一人一人の表現を認めることのできる美術教育を通して、今後は地域社会の中で自分のできることに取り組んでいきたいと思っております。



臨床・健康教育学系
教授 加藤 哲文

プロフィール
2000年4月、教授として着任。専門は臨床心理学、特別支援教育、応用行動分析学。

教育大学の未来へ期待しています！

本学に着任してから21年がたちました。この間、主に心理専門職の養成に従事してきましたが、教育の場で“こころの専門職”がどのように役に立っているのかが私の大きなテーマでした。昨今の状況を考えると、さらにこのような思いが募ります。本学は教育の専門大学ですが、人のこころにしっかりと向き合える教育者が広がっていくことを期待しています。



インタビュー 大学院で

輝く人

大学院3年
特別支援教育コース
ほか その たけし
外菌 猛 さん



上越教育大学大学院へ 入学を決めた理由

私は教員を目指し、数学の教員免許取得のため、大学の教職課程に在学していました。しかし、そこで学ぶうちに、小学校教員へのあこがれや、自身が聾者ということから特別支援教育を学び聾学校で教えたい、他の障害種に関する知識も深めたいと考えるようになりました。

そんな時、上越教育大学大学院の教育職員免許取得プログラム(免P)で大学院に在籍しながら学部の課程で小学校の免許を、大学院の課程では特別支援学校の免許を取得することができると知り、この大学院への入学を決めました。

学生生活

私は幼稚部から高校部までずっと聾学校に在籍し、大学も筑波技術大学という聾者や難聴者が学ぶ大学に在籍していたため、健聴者が多い環境で生活することは初めての経験でした。正直なところ、はじめはコミュ

ニケーションや人間関係の不安がありました。手話を身につけてコミュニケーションができるようになった同期がいたり、筆談を持ち掛けてくれる先生や学生がいたり、お互いが通じ合える方法は何なのかということをお互いが考えて、歩み寄って、様々な方法でコミュニケーションをとることができました。3年間の中で不安は少しずつ小さくなり、とても充実した学生生活を送ることができました。

教員を目指す意気込み

3年間の院生生活では、小学校と特別支援学校の免許取得のため、多忙な日々でしたが同時に多くの学びがありました。特に、子どもの発達や特性に合わせた指導が必要であること、自身の中でそれらの切り替えが必要であることなど、様々な発見がありました。それらの学びを踏まえたうえで行った教育実習では、実際に子どもたちに指導をする中で、教員になりたいという気持ちが更に強くなり、自分の目指す教員像をはっ

きりさせることができました。これから教育現場で関わっていく子どもたちが教員にあこがれを持てるような、そんな教員を目指していきたいと思っています。



インタビューを終えて

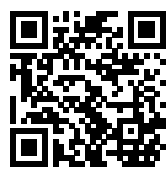
言語も文化も育ってきた環境も違う外菌さんの考え方に、3年間影響を受け続けてきました。お互いの違いを考えて、お互いが歩み寄ることの大切さと楽しさを、これから関わる子どもたちにも伝えて、考え続けていきたいと思っています。

■ 聞き手・文(写真左)

大学院3年 特別支援教育コース 鈴木 祐之介

免P = 教育職員免許 取得プログラム

本学大学院入学者で、教員免許を持っていない方や他校種、他教科の教員免許を取得したい方を対象に、長期履修学生制度を利用し、2年分の学費で3年間在学し、大学院の教育課程と学部の教員養成カリキュラムの単位を修得することにより、教員免許状を取得することができるプログラムです。



QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

アンケートにご協力ください
公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からご回答いただけます。アンケートにお答えいただいた方には粗品をお送りいたします。(先着10名様)



Facebook
はじめました



Instagram
はじめました